



TV Animation Series

VOLUME ONE

©BCE / Project Engage



1

Engage Kiss 1

TV Animation Series

EK

Engage
エンゲージ
Kiss キス

クズと悪魔と男と女 ~Kisara~

丸戸史明

発行：2022年9月28日

発売元：株式会社アニプレックス
〒102-8353 東京都千代田区六番町4-5

編集協力：萩原 猛（オルクス）

装丁者：BALCOLONY.

印刷・製本：株式会社ソニー・ミュージックソリューションズ

※本書は、法令に定めのある場合を除き、複製、複写することはできません。
※NOT FOR SALE

©BCE / Project Engage
ANZX/ZB 15641
Printed in Japan

【注意】

このSNSは、TVアニメ『Engage Kiss』第一話「クズと悪魔と男と女」を、特定キャラクターの視点に限りなく寄せた作品となります。

そのため、特定キャラクターの妄想や思い込みやSNS画面が頻出する」となりますが、これもProject Engage のメディアミックスの一環として受け止めていただければ幸いです。

——五時一〇分 最寄り駅到着

I いいね

xx_kisa_love_xx 試験終わつたー！

夕子はんの買い出しも済んだし

これから彼のお部屋へまっしぐら

もう一週間も顔見れてない

今夜は甘えまくるぞー！

#シユウくん欠乏症

駅前ロータリーから繁華街、そしてオールドタウンの裏道へと、エコバッグからはみ出たネギを揺らしつつ、少女が一心不乱に駆け抜ける。

その表情は歩調と同じように弾み、まさに青春を謳歌するJKのようにキラキラと輝いていた。

彼女の名はキサラ。姓はまだない。

ちなみに通っている高校では緒方キサラを名乗っているがもちろん源氏……いや偽名だ。

※ ※ ※

——五時三五分 I & S事務所到着

「ごめんね、最近来れなくて…今週、期末テストだったから」

そんな彼女……キサラは、弾む足取りのまま、とある雑居ビルの一階、『I & S事務所 緒方シユウ』のネー

ムブレートが掲げられた部屋へと入っていくと（侵入方法については割愛）、すぐにエコバッグから取り出した食材をテーブルに並べ、米を洗い始める。

「どうせコンビニ弁当ばっかりだつたんじょ？ シュウくん、わたしがいないと、ほんとにさー」

誰からの返事もない部屋の奥に向かって話しかけ続け、しかも会話を巧妙に自己完結させるその姿は少しばかりの薄ら寒さを感じさせないでもなかつたが、まあ前述の通り部屋の中に彼女以外誰もいないので問題ない。「ん？」

しかしこの街に住む者たちのほとんどは、この、ちょっとだけメンがへラつていそうな彼女の本当の姿を知らない。

そう、彼女……キサラこそが、このベイロンシティで最強にして最恐にして最狂の、A級認定悪魔である」とを。

1 いいね

xx_kisa.love_xx 電気止まってる…

こはん炊けない

火も使えない

炒め物も、煮物もできない

これじや彼に、おいしいごはん作れない

でも、落ち込んでる暇ないよね

こうなつたら工夫と愛情で乗り切ろう！

できるこどをやるんだ！ 彼のために！

もしかしたら、がっかりされるかもしねない

でもいいの、あたし何があつても頑張る
ほのかにゆらめくろうそくの灯りの中

ゆつくりと愛を育てていくんだから
#幸せすぎて怖い #神様から罰が下るかも #日陰の女 #通い妻 #内縁 #誰にも言えない

そして某SNSの零細アカウント【xx_kisa.love_xx】の中の人であることを……

キサラがこのように、SNSに重度に依存しながらも、フォロワーや一人の零細アカウントに引きこもつてているのには、闇に病まれぬ……いや、止むに止まれぬ事情がある。

実は彼女は、以前はフォロワー数千人のそこそこ中堅アカウントを持っていた。

そこで日々、恋人との仲睦まじき様子をアップしてはいいねを沢山もらい、その承認欲求が満たされるにつ

れさらに更新頻度と恋人自慢が加速していくという、典型的なキラキラSNS女子だったのだ。

しかしある日、彼女のフォロワーの一人が、キサラと仲睦まじく写真に収まっている恋人の男とリアルで会つていたことが判明し、炎上してしまつた。

ちなみに炎上したのはネットではなく、二人が会っていた喫茶店の入っていたビル一棟まるごとだつたりした。そしてその日から、キサラはその縁起の悪いアカウントを閉鎖し、フォロワーを厳選して裏垢女子として第二のSNS人生を始めることとなつたのだ。

……まあそれでも、三年前まではほんと人間の感情を持ち合わせず野獸同然だったキサラが、こうして急速に人間らしい感情を手に入れていつたのも、この、人間の光も闇もひつくるめて原液で浴びせてくる、あまりに無慈悲であまりに人間的なインターねツツによるものといつても過言ではない。

それが彼女の人間としての性格形成にとつて良いことだったのかはさておき。

※ ※ ※

——一七時四八分 夕食前のひととき

「ごめんなさいあたしがいけないのしばらく顔出せなかつたし学校がテスト期間だったなんて言い訳にもならないよねなら言わなくともいいよね何言つてんだろうねあたしそりやああなたもあたしのことなんか忘れちゃうよねあたしなんて生きてる価値ないよね本当どうしようもないよね……」

「いただきます！ めっちゃいただきますから！」
なにしろ、あれほど帰りを待ちわびていた恋人にちょっと『夕食食べてきちゃつた』と言われただけでこの振れ幅である。

これもインターネットの弊害というものだろうか。

※ ※ ※

——一八時二〇分 生活費枯渇

「もうおしまい：二人とも一文無しなんて生きていけない。一緒にお薬飲んで天国に行くしかない」
さらに、男に生活費を貢いだその瞬間、すぐに代引きで残りの生活費までむしられてしまっただけでこの下がりようである。

1 いいね
xx_kisa.love_xx

#天国でもズつと一緒にだよ

……いや、これは男が悪い。完膚なきまでに男が悪い。

※ ※ ※

——一九時一二分 出動

「じゃ、行つてくる」

玄関の方から、シユウの心細げな声がキサラに届く。

それでもキサラは、ベッドにうつ伏せのまま、振り返りもせず、返事もしない。
「さつきの金、明日には返すからさ」

そんなキサラの拒絶を受けてシユウの声は、ますます消え入りそうなほど弱まり……
その、弱々しい勢いとともに扉が閉ざされると、室内に静寂が訪れる。

「……ま、とりあえず気が向いたら顔出してよ」
「現場はレジエストンホテルの地下カジノでさあ」
……と思った一〇秒後にまたドアが開き、シユウが顔を覗かせる。
それでもキサラは、やはり身動き一つしなかった。

そんなキサラの無反応に頭をかきつつ、シュウは音を立てないようゆっくりドアを閉じ、ふたたび室内に静寂が……

「退魔局はC級って言つてたけど、俺の持つてる情報だと、そんな生易しい奴じゃない」
……おとずれた五秒後には、またそつと扉が開かれる。

「間違いく、キサラじゃないと倒せない敵だ」

今までよりも決意を込めた真剣な声でキサラに告げると、みたび扉を閉じる。

今度こそ、今度こそ静寂が……

「あ～、嫌だな～怖いな～、殺されちゃつたらどうしようかな～」
四度目は微妙にモノマネ^{相・母}が入っていた。

1 いいね

xx_kisalove_xx しにたい

彼がまた、夜のお仕事取つてきた

あたしのお金でお仕事道具買つて

あたしの気持ちなんかなにも考えずに

あたしを夜の街に連れ出そつとする

いつもそう

あたしに何の相談もなく決めてくる

あたしはベッドから出ない

考えるのもイヤだ

彼は一人で部屋を出ていった
あたしの愛を、お金に替えて
あのブス悪魔のもとに行っちゃつた
彼がドアを閉じる音が、耳から離れない
機嫌がなおつたら来てつて言つてたけど
今のあたし、立つ気力あるのかな?
あたしつてなんなのかな
彼の、なんのかな

#行かないで #置いていかないで #今すぐ戻ってきて #戻つて強く抱きしめて #愛してるって言つて
#七兆回言つて #行つちやつた #病む #病み垢さんと繋がりたい #疲れた #人間やめたい #そもそも
人間じやない #死にたい #死ねない #死んじやいたい #でもやっぱり死ねない #てゆうか死なない
#天国つてどんなどこ? #神様つているのかな #まあ悪魔はいるけどね

「ちょっとキサラさん! SNS更新してる暇があるなら仕事手伝つてよ! あとハッシュタグがアレすぎない!？」
五度目はよくわからない言いがかりだった。

※ ※ ※

——一九時二六分 レジエストンホテルベイロン到着

「来ちゃった……」

と、まるで、かつて『もう一度と家には来ないでくれ。妻もいるんだ!』と言われた男のマンションを見上げるような風情でキサラは呟いた。

実際には、彼女が立っているのは、警察により非常線が張られ、とても物々しい雰囲気の漂う高級ホテルの前だったのだが。

「行かなくちゃ」

まあ、それはともかく、キサラはビルを見上げると、ゆっくりとその壁に近づき……

「だつて、シユウくんは……」

そして、自らの体を、その壁の中に吸い込ませていく。

xx_kisa.love_xx やっぱり来ちゃった

いつもも、いつももこうなつちやう

都合のいい女つて思われちやうかな?

ううん、もう思われるよね

あたし、絶対軽く見られてるよね

でも、しようがないよね

あなたは、あたしがいないと、何も、できないんだから

だから、あたしがあなたの剣になる、盾になる、なんにでもなる

ぜんぶ受け止めてあげる

#愛してる #愛されたい #愛し愛されて生きるのさ #自分語り #自発ください

――一九時三七分 儀式

※ ※ ※

「俺は、どうしても、奴を倒したいんだ」

キサラの日の前、唇を突き出せば届くくらいの距離に、シユウの顔がある。

「そのためには、キサラの力が必要です」

「するの……?」

「ま、まあ……」

「二人の愛の力でパワーアップってこと……だね?」

「えーと、少しニュアンスは違うんだけど……」

その瞳は彼女を妖しく見つめ、吐息は熱く、荒く、今にも自分を激しく求めてくる、とキサラは確信した（個人の感想です）。

「目、閉じて」

「できれば優しく……んんんっ!?」

「んっ……」

シユウの唇が、キサラを貪る（個人の感想です）。

「ん、んう……っ」

「ん、んんぐ……っ」

シユウの舌先が、キサラの唇の中に捻じ込まれ、歯茎を優しくなぞった後、舌に絡み、そのまま喉奥に唾液を流し込む（個人の感想です）。

xx_kisa.love_xx 彼の唇が

Engage
エンゲージ
Kiss キス

クズと悪魔と男と女 ~Kisara~

丸戸史明

発行：2022年9月28日

発売元：株式会社アニブレックス
〒102-8353 東京都千代田区六番町4-5

編集協力：萩原 猛（オルクス）

装丁者：BALCOLONY.

印刷・製本：株式会社ソニー・ミュージックソリューションズ

※本書は、法令に定めのある場合を除き、複製、複写することはできません。
※NOT FOR SALE

©BCE / Project Engage
ANZX/ZB 15641
Printed in Japan